

糸永 英弘 (いとなが ひでひろ)

大分県 生まれ

大分上野丘高校卒業 (大分県)

長崎大学医学部卒業



「ベッドからベンチ、ベンチからベッド」を実践できることが“血液内科医のやりがい”として強く感じました。

(1)理想とする医師像はどのようなものでしょうか？

知識の獲得や技術の習得、研究においても常に患者さんにフィードバックすることを意識して、研鑽をつむことが理想です。

(2)大分県出身の糸永先生が、長崎に残った理由は何でしょうか？

故郷の大分県はもちろん大好きです。長崎の美しい街並みと、他者を受け入れる寛容な県民性にアット・ホームな感覚を覚えました。

そして、自分を医師として育ててくれた長崎に恩返しがしたかったことも大きな理由の1つです。

(3)学生や研修医の頃には気づけなかった、“血液内科医のやりがい”は何ですか？

診療と研究の距離が近いことです。日々の診療で気づいたことを基礎的な観点から考える機会がとても多いですね。「ベッドからベンチ、ベンチからベッド」を実践できることは“血液内科医のやりがい”として強く感じました。

(4)糸永先生から見た、今の原研内科医局の雰囲気はどうですか？

情熱に溢れた若い先生たちが多いこともあり、「課題に熱心に取り組む」という雰囲気に満ちています。お互いに刺激をし合える良い環境であると感じています。

(5)いつもパワフルである糸永先生の原動力はなんですか？

僕は基本的に“新しいもの好き”なんです。常に新しいものに取り組みたい性格ですから、“根気不足”と自分自身で感じることも少なくないですよ。でも、何事にも“諦めない”姿勢を大事にする血液内科の環境にすることが、良い意味で僕への刺激になっているのかもしれないね。